

# はたらくはずな

vol. 10  
2020.3.1



富士市のユニバーサル就労への取り組みが内閣府の特命担当大臣表彰を受けました。平成29年2月の条例制定から3年。全市一体となつた地道な取組が国レベルで認められたことになります。

富士市が受賞したのは内閣府主催の令和元年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で、内閣総理大臣表彰に次ぐ2番目の高位表彰。自治体としては全国唯一の受賞でした。令和元年12月26日に行われた表彰式には小長井義正市長が出席し、衛藤晟一担当大臣から表彰状を受け取りました。また表彰式後の懇親会では小長井市長から安倍晋三総理大臣や衛藤大臣に事業概要を報告しました。

小長井市長は受賞について「きめ細かなオーダーメイドの支援が評価されました。安倍総理、衛藤大臣からも、人手不足対策に悩む企業の人材活用につながると細かく質問されました。今後も一層力を入れていきます」と話していました。

富士市の事業が従来の就労支援事業と一味違っているのは、これまで対象外となつてしまっていた、いわゆる「グレーゾーン」の方も含め、誰もが働くことができる仕組みを整え、一人ひとりに合わせたオーダーメイドの就労支援を行つてていることです。市と議会、市民が一体となり、就労支援センターを設けているのも特徴です。

新年度からは相談窓口を相談から支援まで一貫して支えるワンストップの相談窓口とするなどさらに充実した支援を行つてきます。

# 富士市のユニバーサル就労支援は 4月から新しくなります

フィランセ東館1階の各相談窓口などを再編して、市民の皆さまがより利用しやすくなるようなパワーアップを目指します。

## 富士市ユニバーサル就労支援センターとは？

働きたい気持ちはあるものの、働きづらさを抱えている市民への就労支援として進めている「ユニバーサル就労」の取り組みの中核施設です。

## どのように変わるの？

1人ひとりに合わせた就労支援ができるユニバーサル就労の特性を生かし、これまで別の窓口で行っていた生活やお金・就労に関する相談を4月から富士市ユニバーサル就労支援センターで行います。

## 現在

くらし・しごと 相談窓口	ユニバーサル 就労広報室
生活と就労の相談	ユニバーサル就労の 周知・啓発
ユニバーサル就労 支援センター	つきやる
1人ひとりに合わせた 就労支援	就労と就職活動 の相談



4月から

## ユニバーサル就労支援センター

フィランセ東館1階 ☎ 64-6969

- ① 生活の相談・支援
- ② 就労の相談・支援
- ③ ユニバーサル就労の周知・啓発

## 相談例

- ・1人では仕事を見つけられない
- ・育児中で短時間の仕事を探している
- ・生活が苦しい
- ・引きこもりの悩みを抱えている
- ・住まいを失う心配がある

相談員が相談内容に合わせて支援を行います。また、相談内容によっては、他の支援機関におつなぎします。

## 支援の流れ

富士市ユニバーサル就労支援センターに相談

1人ひとりに合わせた支援プランの作成、目標を設定  
※支援プランは作成しない場合もあります

ユニバーサル就労支援センターでの支援  
または他の支援機関へつなぐ

目標の達成（生活や就労での自立）  
支援の完了

## 支援例

面接練習、履歴書の添削、生活や就労に関するセミナー、職場見学、就労体験、企業とのマッチング、食料支援、生活福祉資金、家計の改善、住居確保給付金など

※相談者の状況によっては利用できないものもあります。

## 問い合わせ

生活支援課 ☎ 55-2886 FAX55-2987





## 第1回富士市ユニバーサル就労協力企業会開かれる

事例発表などで情報共有  
50社、60人参加

「富士市ユニバーサル就労協力企業会」の初めての会合が1月17日、市消防庁舎で開かれました。ユニバーサル就労の現状や実践企業からの事例報告などを受けて、情報共有と担当者間の交流を図るのが目的で、50社から60人が集まりました。

市生活支援課によるとユニバーサル就労支援センターが発足してからの3年弱で、新規利用者は147人、就職者81人となりました。主な働きづらさとしては「体調不良」「コミュニケーションが苦手」などが挙げられ、年代的には20代の利用者が最も多いことなどが報告されました。

### 3年間で130社する協力企業確保に力を発揮

またこうした働きづらさを抱える人たちを受け入れる企業としては、市が130社を協力企業に認定し、このうち64社で就労体験やコミュニケーションを受け入れ、実際に34社で実際に130社を業種別にみる

協力企業数と実際の就労体験の受け入れ企業数の違いについても、働きたい側の希望もあって、なかなかマッチングしないことがあります。この後、既にユニバーサル就労の受け入れを実践しているケンコーマヨネーズ株式会社静岡富士山工場、株式会社ウエルビーイング、富士センコー運輸株式会社の人事担当者が事例報告しました。この中では、「採用にはトップの意向と同時に、一緒に働く一般社員たちの現場理解の両方が必要」「人手不足の中高齢者も大切な人財」「採用に当たっては、採つてやるとか仕事を与えるという感覚でなく、双方がワインワインの関係にあると思うことが大切」など、経験を踏まえてのアドバイスがありました。

この後、既にユニバーサル就労の受け入れを実践しているケンコーマヨネーズ株式会社静岡富士山工場、株式会社ウエルビーイング、富士センコー運輸株式会社の人事担当者が事例報告しました。この中では、「採用にはトップの意向と同時に、一緒に働く一般社員たちの現場理解の両方が必要」「人手不足の中高齢者も大切な人財」「採用に当たっては、採つてやるとか仕事を与えるという感覚でなく、双方がワインワインの関係にあると思うことが大切」など、経験を踏まえてのアドバイスがありました。

た。協力企業数と実際の就労体験の受け入れ企業数の違いについても、働きたい側の希望もあって、なかなかマッチングしないことがあります。この後、既にユニバーサル就労の受け入れを実践しているケンコーマヨネーズ株式会社静岡富士山工場、株式会社ウエルビーイング、富士センコー運輸株式会社の人事担当者が事例報告しました。この中では、「採用にはトップの意向と同時に、一緒に働く一般社員たちの現場理解の両方が必要」「人手不足の中高齢者も大切な人財」「採用に当たっては、採つてやるとか仕事を与えるという感覚でなく、双方がワインワインの関係にあると思うことが大切」など、経験を踏まえてのアドバイスがありました。

運送業14社などとなっています。交代勤務があつたり作業に危険が伴う業種はさすがに少なく、一方でパートシーツや紙おむつ作りなどの紙加工業には比較的受け入れられやすいようです。働き方としては体力的な負担が少なかつたり特別な経験を必要としない清掃部門などが目立つほか、軽作業への従事が多いようです。最近では協力企業での就労体験をする人が増えており、令和初年度の4～12月までに、職場見学34人、就労体験27人、コミュニケーション12人を数えました。

同センターによると「社会に出られない」人の多くが「自信喪失」ということで、初めのころと違つて見学や体験を重視することで、仕事に入つていける人たちも増えているということです。

## 企業説明会でのよくある質問

協力企業説明会では出席していただけた関係者から直接質問を受けたり、アンケートに記入していただく方式でさまざまな疑問に対応しています。これまでに比較的多かった質問や疑問をいくつか挙げてみました。

### Q. 就労体験中の事故やけがにはどうしたらよいか?

「支援センターが損害保険に入って対応する」「保険で対応できないような危険な業務はあらかじめ外していただく」

### Q. 有償コムьюーターにはいくらくらい支払えばいいか?

「交通費や実費程度」

### Q. 受け入れた方は必ず雇用までみないといけないのか?

「適性を見て双方ともにマッチングした場合にはぜひ雇用を」

### Q. 企業のメリットは?

「新たな雇用方法や従来のキャリアアップの手段となった」「どんな人にも事情があり、相手のことを知り理解することによって自分の行動を見直すきっかけになった」「社員一人一人がみんなに配慮する雰囲気になり職場の雰囲気が温かくなった」「社会貢献ができた」(いずれも協力企業からの回答)

### Q. 企業が知っておきたい利用者の情報は開示されるのか?

「本人の同意を得たうえでその方の働きづらさや特性、雇用に必要な情報は事前に開示している」

このほか、ユニバーサル就労支援センターの体制や利用者の現状、シニアやシングルマザーの利用の可否などにも質問がありました。



## パイロット事業所第4号 に株式会社ウエスト・トラスト・ライフサポート

### JR富士駅直結の交通至便な場所で介護施設経営



JR富士駅南口からペデストリーアンデッキで直結する富士駅再開発ビルに株式会社ウエスト・トラスト・ライフサポート（西尾公雅代表取締役）の本社と介護付有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅「富士山するがテラス」があります。リビングから雄大な富士山と駿河湾が望める、これだけの好立地に恵まれた福祉施設は全般的にも珍しいことです。

ウエスト・トラスト・ライフサポートの設立は平成25年。富士駅南口周辺を対象とした再開発事業がきっかけでした。「富士市に活動的にも珍しいことです。

ウエスト・トラスト・グループには「富士山するがテラス」のほかにもう一つ、市内松岡に「富士山松岡ガーデン」というサービス付き高齢者向け住宅があります。「富士山するがテラス」より半年前の平成29年に開業しました。

同社はこの2つの施設に富士市ユニバーサル就労支援センターから紹介された8人の職員を採用しています。うち6人は清掃業務ですが、1人はヘルパー2級の資格を持つ女性、そしてもう1人は清掃要員として同社に

気を」と思った西尾氏は「衣食住の住と、それに付随する福祉のビルとして、地域の包括ケアシステムの核となる拠点としたい」と考え、介護業界への参入を決意したと言います。

ただ富士市の介護現場での有効求人倍率は当時も今も5倍を超すほどで、人手不足への対応は待ったなしでした。そこで生きたのが西尾氏が大学卒業後、正社員として勤めていた大手コンビニエンスストア本部での経験。当時から、パート・アルバイトの従業員の働きやすい曜日とか時間を聞いて、短時間労働を工夫してきたということです。

ウエスト・トラスト・グループには「富士山するがテラス」のほかに、「富士山松岡ガーデン」というサービス付き高齢者向け住宅があります。

「富士山するがテラス」のほかにもう一つ、市内松岡に「富士山松岡ガーデン」というサービス付き高齢者向け住宅があります。「富士山するがテラス」より半年前の平成29年に開業しました。

入ってから、介護職員初任者研修を終了して介護の仕事をする資格を得た50代の男性です。

### 採用者の資格取得を応援

介護業界の人手不足の原因に、ヘルパー業務の配置基準の厳しさが挙げられます。現在は入居者が3人に1人の配置が義務付けられています。このため同社では、清掃業務の一員として採用した職員にも可能な限り資格の取得を働きかけます。

実際に資格を取得したYさんは、「富士山松岡ガーデン」で働いています。Yさんは脳梗塞の後遺症で足が不自由になつたうえ、母親の世話を必要だつたため、ほぼ4年間、家にこもつて暮らしていました。

しかし昨年、市の勧めもあってユニバーサル就労支援センターで支援を受けるようになり5日間の就労体験をしてから3月に正式な雇用契約を結びました。初めは週16時間勤務でしたが、今では1日8時間の仕事をこなしています。さらに西尾氏の勧めもあって資格取得に挑戦、令和元年12月に介護職員初任者研修の修了試験をクリアして、晴れてヘルパー業務に携わることも出来るようになりました。

Yさんは「人見知りで初めは心配だったけど、やつてみたらなんとか出来るようになりました。今まで誰とも普通に話せます。生活保護を3年間受けていましたが、今は生活保護を外れて身軽になりました」と喜んでいます。

西尾氏は「ここで働きたい、社会に出たい、という意思さえあれば多少のハンデがあつても採用します」と話します。同社では事務の仕事でも今、仕事を業務分解して短時間労働を実践しています。



西尾代表取締役

## 全国から視察相次ぐ 内閣府からも調査に



富士市のユニバーサル就労支援事業はスタート当初から、全国の自治体や議会の視察が相次いでいます。東京都や神戸市などの大都市から1万人未満規模の町などもあり、昨年10月には内閣府担当者らが労働者表彰（1面参照）の現地調査に訪れました。参議院予算委員会や厚労省の調査機関など国レベルの視察もあり、この3年間での視察は38団体となりました。

視察の流れは初めに富士市の作製したユニバーサル就労の紹介動

画を視聴した後、市担当者が富士市がユニバーサル就労推進条例を制定した経緯、市ユニバーサル就労支援センターの担当者が具体的な支援について説明するのが一般的です。

質疑で最も多いのは、富士市がユニバーサル就労を推進することになった経緯と「なぜ」やらねばならないかたか、ということです。とりわけ富士市議会が声を上げ、市が足並みをそろえて条例化や支援センターの設置に動いたことなどに大きな関心が寄せられました。また無償と有償のコムユイターなど耳慣れない働き方について、サポート登録の意味と現状、受け入れ企業をどう拡大し研修をどうしているか、市自体の受け入れ状況は一など質問が続きました。

支援センターの三神和之センター長は「市が条例を制定して市民や企業の責務を明記したこと立っている、という点を説明するとかなりインパクトが強いように思います。全国から視察が来ることで自分たちがやっていることが意義あることだと実感しています」と話しています。



## 協力企業のパネル展示、 市役所市民課口座で

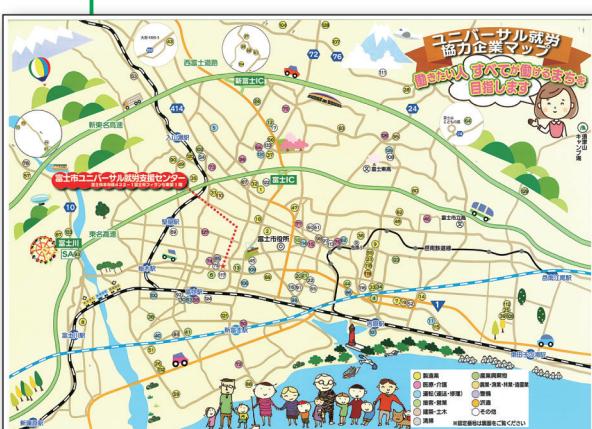
富士市内のユニバーサル就労協力企業を紹介するパネル展が1月7日から31日まで、富士市役所2階の市民課口座で開かれました。昨年6月に市立中央図書館で開催したのに続いて2回目です。展示したのは市内の協力企業130社のうち、市が認定したパイロット事業所3社を含む72社です。

パネル展には市役所を訪れる市民が毎日のように顔を出し、どんな企業が協力しているのか、興味深そうに見て回る姿が見られます。それぞれの企業の住所・代表者・従業員数などの会社概要、経営理念や会社のアピールポイントなどが、それぞれの社の工夫を加えて紹介されました。

業内容などの会社概要、経営理念や会社のアピールポイントなどを、それぞれの社の工夫を加えて紹介されました。

## ユニバーサル就労協力 企業マップ

富士市ユニバーサル就労支援センターは、働きたい人を受入れてくれる協力企業が、市内のどこにあるかが一目で分かる「協力企業マップ」を作成し、希望者に配布しています。働きづらさにもいろいろありますが、通勤が難しいことなどもその一つです。マップには数字で企業の位置が分かるとともに、数字が業種ごとに色分けされているため、自分が働きたい企業があるかもしれません。企業名は裏面に記載しています。



## シールアンケートの実施

富士市ユニバーサル就労広報室はこの3年間、市内で行われた各種イベント会場で「ユニバーサル就労」の認知度を知るために、シールアンケートを実施してきました。質問は「あなたは『ユニバーサル就労』という言葉を聞いたことがありますか」と「身近に働きたくても働いていない人はいますか」の2つだけです。3年間の結論をいうと認知度は着実に高まっていますが、まだまだ知らない人も大勢いる、ということだったと思います。ざっくり振り返ってみます。

3年間、毎回アンケートを実施したイベントは、「商工フェア」「おとなまつり」「シルバー人材センターふれあいフェスティバル」「福祉まつり」「キッズジョブ」の5イベント、2回が「市社会福祉大会」、そして中央図書館と富士市役所市民課ロビーでの協力企業パネル展会場が各1回です。

3回実施したイベントでは、ほとんどで年々認知度が高まっていますが、特に「シルバー人材センターふれあいフェスティバル」では「知っている」ひとの割合が、39%、47%、58%と順調に伸びてきました。また「福祉まつり」では44%、34%、57%と2年目に少し落ちましたが、3年目は大きく伸びました。一方「商工フェア」は27%、29%、34%と着実に増えていますが全体としては認知度が高くありませんでした。2回実施の「社会福祉大会」は91%、92%とさすがに福祉を担う人たちの集まりと感心させられました。

### イベントでの反響

ユニバーサル就労広報室が行ったシールアンケート会場では、協力していただいた市民からの直接の声もたくさん聞かれました。

年配の方からは「年金だけでは不足なので働きたいが、体力的に普通の仕事は難しい。毎日でなく週何日か短時間でも働けたら」という声が多くの人から聞かれました。乳幼児を抱えた若い主婦からは「働きたいけど子どもの託児や保育がしっかりしていないと働きたくても働けない」との声もありました。障害者手帳は持っていないが、対人関係のコミュニケーションがとりにくいという子どもを持つ親からは「就職する前に高いカベがそびえている。なんとかしようと努力をしている子どもをみると、受け入れてもらえるところがあればいいと思う」と期待の言葉も寄せられました。

また一方で、「私は今のところ働く気はない

また「身近に働きたいのに働いていない人がいる」割合は、多いところで60%台、少ないところで40%台でした。富士市内の有効求人倍率がここ数年高止まりしているのに、働いていない人が「いる」と答えた人が意外に多いのも少し予想外でした。

2年前には「ユニバーサル就労」と言っても「何それ」とか「大阪のユニバーサルスタジオなら知っている」などという知名度だったことを考えると着実に知る人は増えています。またアンケートに答えてくれた人は、その日からはもう知つてもらえることになったわけで、こうした地道なPRも必要なことだと思いました。

### 「ユニバーサル就労」という言葉を聞いたことがあると回答した人の割合

実施場所	日時	割合
社会福祉大会	2018	91%
	2019	92%
シルバー人材センター ふれあい フェスティバル	2017	39%
	2018	47%
	2019	58%
福祉まつり	2017	44%
	2018	34%
	2019	57%

が、身近には同じくらいの年齢で働きたいという人はいっぱいいる」という高齢の方が見えて、どうしたらユニバーサル就労にアクセスできるか真剣に聞いている姿も見られました。

まれには「なぜ市が税金まで使ってこんなことをするんだ」などと意見が寄せられることもありましたが、全体を通じては市民の好意的なまなざしが多かったと感じました。



市内の就労支援機関はこんなお仕事しています！

第3回

## 富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」

「ココ☆カラ」の最も大きな特徴は、若者一人ひとりの意思に寄り添う「伴走型」支援にあります。最終的に就労を目指すとしても、その前提としてその若者が「何をしたいか、何を望んでいるのか」を知り、その実現のために家庭にも出かけるアウトリーチ的対応にも力を注いでいます。

「ココ☆カラ」が開所したのは平成27年4月、今も活動の拠点となっている市教育プラザのオープンと同時に、教育プラザの敷地内が、コミュニティースペース(居場所)として、若者・市民の方々・ボランティア・サポートの交流の場となっています。家から一歩出るスペースとして活用したり、様々な活動を通して人の関わりに慣れていく若者がたくさんいます。

相談を受ける対象は市内に住んでいるか勤めている中学卒業生からおおむね39歳までの若者とその家族です。現在、常勤2人を含む5人で運営しています。相談者は主としてニートや引きこもり、不登校などの困難を抱える若者とその家族ですが、その状況はまさに十人十色。若者の多くは社会との接点を失くし、一人で解決できない悩みなどを抱えています。生活困窮など家庭的な背景などから表に出られなくなつた若者もいます。その一人ひ

とりの状況に応じた支援に取り組んでいます。

こうした若者たちにとって大切なのは、社会との接点を持つてもらうこと、社会を知ってもらうことです。そのためには家庭を訪ねて直接話を聞いたり、登校したくてもできない子どもに実際に付き添って学校まで行く、というようなこともあります。

これまでの新規登録者は600人超。相談件数も、昨年度は延べ1000件近い数字となっています。居場所利用者も、毎年延べ2000人を超えてます。

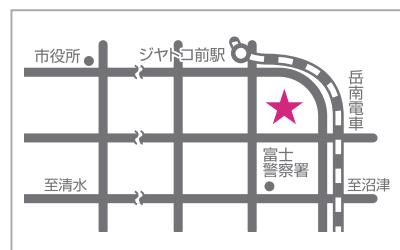
「ココ☆カラ」のもう一つの大きな特徴がたくさんの地域のボランティアに恵まれていることです。「ココ☆カラ」は毎年、若者サポート養成講座を開いて「富士市のおせっかいな方、若者支援を通して地域を盛り上げたい方」を募集していますが、その数がこの5年で200人に上ります。

相談員の渡邊慈子さんは、若者とサポートとの関わりの中で「印象に残っているエピソードがある」と言います。あるサポート者がコロッケをたくさん差し入れてくれた時「これ食べてもいいんですか」と聞いた若者がいたのですが、彼は働いて得た最初の給料でコロッケを買ってきて「僕が初めて来た時にコロッケをもらってうれしかった。自



分も同じことをやりたいと思った」と言っていたそうです。渡邊さんは「若者づくりは地域づくりです。外に出られない子どもに居場所を提供する。最終的には自立のための就労までいきたいけど、それが目的ではありません。何に悩み、何をしたいかを聞いてその気持ちに寄り添う、そんな相談窓口でありたいですね」と話しています。

- 富士市若者相談窓口「ココ☆カラ」
- 住所：富士市八代町1-1  
富士市教育プラザ内
- 電話：0545-55-0562
- 時間：火～土 9:00～17:00  
(予約制)



た。声も聽かれるということでした。事業側からは、「仕事中に体調を崩した時の対応」「生活が乱れて仕事に支障が出た時」などの戸惑いでしい

富士市内のユニバーサル就労窓口連絡会が昨年12月下旬、市役所で開かれました。ユニバーサル就労支援センター・くらし・しごと相談窓口、若者相談窓口「ココ☆カラ」、キャリアデザイン支援室f(きやる)など日常的に就労相談を受けている窓口と市生活支援課、ハローワーク富士など公的機関を含む13機関から35人が参加しました。テーマは「障害をうかがわれる方への手帳取得の促し方」。富士障害者就業・生活支援センター・チャレンジの木村清子センター長の講話を聞き、それの窓口における悩みなどを話し合いました。

木村さんは実際に扱った相談事例などを基に、手帳の取得について「就労を目指すなら取得することはメリットが多く、デメリットはほとんどない」と取得を勧める一方で、一般的には障害者手帳を取得することに、当事者は「周りから白い目で見られる」「結婚や正規社員になるのが難しくなるのでは」「責任ある仕事につけない」とは「などの不安な思いがあることも紹介しました。雇用する企

業連絡会が昨年12月下旬、市役所で開かれました。ユニバーサル就労支援センター・くらし・しごと相談窓口、若者相談窓口「ココ☆カラ」、キャリアデザイン支援室f(きやる)など日常的に就労相談を受けている窓口と市生活支援課、ハローワーク富士など公的機関を含む13機関から35人が参加しました。テーマは「障害をうかがわれる方への手帳取得の促し方」。富士障害者就業・生活支援センター・チャレンジの木村清子センター長の講話を聞き、それの窓口における悩みなどを話し合いました。

**UW窓口連絡会開かれ意見交換**

## ユニバーサル就労 推進特別委員会開かれる

### 令和2年度以降の 事業の進め方を提示

富士市議会ユニバーサル就労推進特別委員会が1月27日に開かれ、令和2年度の事業見直し、事業の再編成、対象となる事業など今後の進め方が提示されました（詳細は2面参照）。

委員からは人材不足の一助となる高齢者の介護施設での雇用の見通しなどについて質問がありました。

会議では新年度から事業を担う事業者の選定プロセス、令和元年度の事業実績、令和2年度以降の推進事業などについて市側が説明しました。

事業者選定については「公募型プロポーザル方式」とし3月9日には優先交渉者を特定して4月1日からは事業開始するとのスケジュールが示されました。

令和2年度以降の事業の進め方では、これまで42事業を対象としていた「ユニバーサル就労推進事業」を整理して29事業に再編することが報告されました。



## 支援センターから

センター長 三神和之さん



富士市ユ  
ニバーサル  
就労支援セ  
ンターが誕  
生したのは、  
平成29年4  
月のことです。  
働きづらさを抱え  
た方たちの就労に向けた支援を開  
始して、3年になろうとしていま  
す。

この間147名の利用者の支援を行  
い、130社の企業が「富士市ユニバ  
サル就労推進事業認定協力企業」  
として認定され、支援の甲斐があ  
り、81名の方の就労が実現しまし  
た（令和元年12月末現在）。

富士市のユニバーサル就労の取  
り組みが評価され、内閣府の令和  
元年度パリアフリー・ユニバーサ  
ルデザイン推進功労者表彰、内閣  
府特命担当大臣優良賞を受賞しま  
した。

また令和2年1月には、ユニ  
バーサル就労協力企業会を開催  
し、50社の協力企業に参加いただ  
きました。今後もこれまで以上に  
皆様の期待に応えられるよう、頑  
張つてしまりますのでよろしく  
お願いいたします。

## ユニバーサル就労広報室から

富士市がユニバーサル就労の推進条例を制定し、本格的に就労支援を始めてから間もなく丸3年になります。ユニバーサル就労広報室は、一般的には耳慣れない「ユニバーサル就労」を市民に知ってもらうため、平成29年の6月に発足しました。

広報室の主な仕事は情報紙「はたらくきずな」の季刊発行、ユニバーサル就労に関する情報のWEBによる発信（メールマガジンとブログなど）、協力企業の情報をパネルにして各種イベントや市立図書館、市役所ロビーなどで開いたパネル展などがあります。また特に力を入れたのが、市民の皆さんに少しでもユニバーサル就労の仕組みを知ってもらったり、働きづらさを抱える人が周囲にいたら市の支援窓口などを教えてもらえるよう働きかける「サポートー」の募集と組織化があります。サポートーは3年間で当初見込みの1.5倍を上回るおよそ

500人になりました。

このほかユニバーサル就労の認知度を確かめるシールアンケート（詳細は6面）などもを行い、知らない人にはその場でユニバーサル就労の仕組みや相談方法などをアドバイスしてきました。

発足から3年をもちまして、「ユニバーサル就労広報室」は一区切りとなります。しかしユニバーサル就労そのものは今後も続きます。広報につきましては4月からリニューアルし、新しい形で続いていきます。具体的な内容についてはあらためてお知らせします。センターのみなさんの個人情報は市の担当課が管理いたしますので、ご不明な点は生活支援課までお問い合わせください。これからも富士市のユニバーサル就労の支援と推進を温かい目で見守っていただければ幸いです。

■ 12月の有効求人倍率（ハローワーク富士管内）：1.57倍 前月比 +0.14 ポイント 前年比 -0.14 ポイント